

平成17年度文部科学省科学技術試験研究委託

「研究環境の国際化手法開発委託」再委託業務成果報告書(機関番号:2)

大学国際戦略本部強化事業 平成17年度 成果報告書

平成18年3月

東北大学

1. 東北大学グローバルオペレーションセンターの概要

(1) グローバルオペレーションセンター設置に至る経緯

本学では、平成16年4月に国際交流企画室を設置しましたが、これは、従来の国際交流委員会にかわるものとして、総長、本学執行部及び国際交流担当理事の指導の下、大学運営のための全学的な国際交流の政策立案を行うため、全学から国際交流に精通している18名の教職員で構成されています。同時に法人化前まで研究協力部の下にあった国際交流課と学務部の下にあった留学生課を併せて、一元的な国際交流支援事務組織である国際交流部を発足させ、さらに平成17年4月には、留学生センターを改組し、国際交流センターを設置し、図1のとおり国際交流部と一体となり、組織的、効果的に国際交流企画室の立案した全学的政策の実現化を図ってきました。



図1 本学における平成16年度以降の国際交流体制

しかしながら、前述の国際戦略を実現化してゆくには、人員も不足し、組織も脆弱であったため、将来にむけて十分な人材を学内に養成するとともに、国際交流業務のノウハウの蓄積をし、より充実した体制整備が求められていました。

平成17年6月から文部科学省の大学国際戦略本部強化事業に採択されたことを受けて、国際交流部とグローバルオペレーションセンターのタスクフォースとから成るグローバルオペレーションセンターを新設して、学内の国際交流業務の中核としての機能を担うと同時に、将来のより充実した国際交流事業実施組織の礎とすることになりました。

(2) グローバルオペレーションセンターの学内での位置付けと機能

図2のとおりグローバルオペレーションセンター長は国際交流担当理事（社会貢献担当理事）が兼務をすることになっており、執行部の諮問的機能を持つ国際交流企画室の立案する全学的な国際交流施策、方針の実現化のための戦略策定とその実施の役割を担うことになりました。

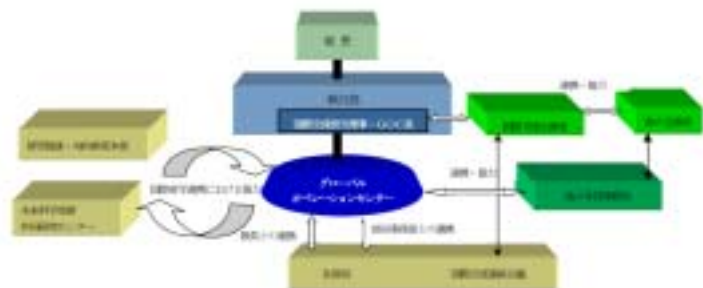


図2 GOCの学内での位置付け

また、学内の各部署の委員からなる国際交流連絡会議や各部署の国際交流担当教員及び事務とも連携しつつ全学的な国際交流事業を実施し、国際産学連携事業や国際的広報等

については、研究推進・知的財産本部や本部事務局の広報部とも協力し事業を実施していくことになりました。

(3) グローバルオペレーションセンターの構成

グローバルオペレーションセンターは、図3のように国際交流部とタスクフォースが一体化した形で組織されています。

タスクフォースは、プロジェクト担当と人材育成担当の2名の**国際展開マネージャー**とその担当業務を補佐する**事務補佐員**、英語圏のネイティブスピーカーである**国際交流アソシエイト**から構成されています。

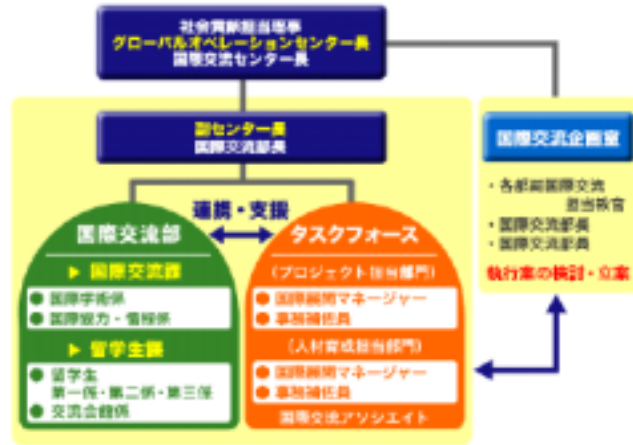


図3 GOCの構成

国際展開マネージャーは、英字新聞のジャパンタイムズ及び本学ホームページ上で公募を行い、90名程の応募者の中から、書類選考及び語学試験、面接試験を経て、国際業務経験と語学力のあるスタッフ2名を新規採用職員として採用しました。また、事務補佐員、国際交流アソシエイトについても、公募により新スタッフを採用しています。

プロジェクト担当と人材育成担当の2名の国際展開マネージャーの分担する業務は、おおよそ次のとおりです。いずれも国際交流部との連携の下、業務を実施します。

(国際展開マネージャー[プロジェクト担当])

- 1) 国内外の大学、行政機関、関係機関との協議、連絡、調整(協定締結関係業務を含む)
- 2) 国際会議(国内・海外)、シンポジウム、セミナー等の準備、運営、支援関係
- 3) 英文ホームページの企画、編集、掲載関係
- 4) 本学の海外施設の運営関係
- 5) その他国際交流業務関係

(国際展開マネージャー[人材育成担当])

- 1) 海外の大学との共同学生育成事業
- 2) 職員に対する国際交流業務研修、語学研修の企画、運営
- 3) 国際インターンシップの実施
- 4) 外国人留学生OB会設置支援とその基礎になる外国人留学生DBを含む国際交流DBの構築
- 5) 海外でのアドミッションサービスの提供の支援

2. 平成17年度業務実績の概要

(1) 平成17年度における成果目標

中国及び欧州との研究者交流、学生交流を強化することにより研究者、学生が常に国際的な学術研究コミュニティの一員として活躍できるような組織的なグローバルネットワークを形成するとともに、個々の研究者、学生の人的ネットワークを構築するための基礎を確立することを目指します。そのバックアップ組織の要員である事務職員の育成にも同時に努め、より具体的には、平成17年度は、中国、フランスとの大学院レベルの学生交流事業（ダブルディグリー・プログラム等）実施準備の支援とそれらの事業を推進する海外拠点の設置準備、グローバルネットワーク構築と国際産学連携のためのフィージビリティスタディー、英文ウェブサイトの充実と国際データベースのための個人情報保護方策を含む運用指針の策定、事務職員育成のための研修計画の策定とその一部である語学研修の実施を目標としました。平成17年度末までに、本学の国際戦略をあらためて整理し、定め、公表することになりました。

(2) 業務の実施日程

業務項目	実 施 日 程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
優秀な学生・研究者受入促進			←									
グローバルネットワークの構築			←		←							
国際情報基盤の構築			←									
事務職員研修の実施			←									
国際産学連携の推進								←	→			
全学的国際事業の支援			←			→						



実施計画



実施実績

(3) 業務の実施状況の概要

優秀な学生・研究者の受入促進

中国の清華大学との共同教育プログラム、フランスの INSA-Lyon(国立応用科学院リヨン校)及び Ecoles Centrale(国立中央理工科学学校)とのダブルディグリー・プログラムの実施に向けて協議を続け、各プログラムの覚書を締結するに至りました。特に、清華大学との共同教育プログラムでは、平成17年11月に清華大学にて「東北大学紹介セミナー」、平成18年2月には本学にて「清華大学紹介セミナー」を開催し、各機関の関係者に同ブ

プログラム及び相手側機関についての広報活動を積極的に行いました。なお、INSA-Lyon 及び Ecoles Centrale とのダブルディグリー・プログラムについても、同プログラム並びに INSA-Lyon 及び Ecoles Centrale の紹介セミナーを本学にて開催しました。

また、東北大学中国ランチ開設準備・協議を行いました。

グローバルネットワークの構築

「東北大学 EU フォーラム（仮称）」については、平成 18 年 3 月にリヨン（フランス）にて、INSA-Lyon 及び Ecoles Centrale の関係者との実施協議を行いました。このフォーラムは、本学の創立 100 周年、Ecoles Centrale の創立 150 周年、INSA-Lyon の創立 50 周年を記念して、3 機関のジョイント・フォーラムとして、平成 19 年 2 月にリヨン、平成 19 年 12 月に東京、仙台にて開催することになりました。

東北大学 OB 会（中国、韓国、台湾）の海外支部立ち上げ準備を行い、さらに本学と国際同窓生との連携構築、さらに国際同窓生相互の連携の維持・強化を図るために東北大学国際同窓会の HP を立ち上げました。

International Alumni Relations [URL:http://www.insc.tohoku.ac.jp/alumni/](http://www.insc.tohoku.ac.jp/alumni/)

国際情報基盤の構築

英文サイトを充実させるとともに、積極的に本学の研究・教育活動の情報発信を行いました。

また、一部ウェブサイトのフランス語及び中国語版を作成しました。

事務職員に対する語学研修の実施

事務職員のための英語初級・中級クラスの研修を実施するとともに、国際交流部職員のための上級クラスの研修を実施しました。初級・中級クラスでは、各部局の国際業務職員等が、外国人研究者・外国人留学生に対し、最低限必要な英語を修得し対応ができるようにトレーニングを行い、上級クラスでは、英文書簡の作成及び英語によるプレゼンテーション等のトレーニングを行い、国際交流担当職員等が必要な語学力の向上を図りました。

国際産学連携の推進

平成 17 年 11 月にリヨンにて産学連携セミナー「第 2 回国際産学連携交流会」を実施しました。このセミナーは、本学とリヨンのグランゼコールとの長年の共同研究の実績をふまえ、仙台市とローヌ・アルプ地方双方の産業界との産学連携への発展の可能性を探るための会合でした。

全学的国際事業の支援

平成 17 年 9 月 26 日、27 日の両日に、中国の北京魯迅博物館にて国際シンポジウム「魯迅の起点：仙台の記憶」を開催しました。仙台においても平成 18 年 2 月 18 日に、その第 2 回目として『「解剖学ノート寄贈」記念国際シンポジウム 魯迅と藤野先生』を開

催しました。このシンポジウム開催により、本学における魯迅研究の成果が日本国内及び中国国内のマスコミに取り上げられる等、成功裏のうちに終了しました。

また、平成17年度中に本学の国際戦略を整理し、定め、公表しました。

3. 平成17年度業務実績の説明

(1) 優秀な学生・研究者の受入促進

清華大学との共同教育プログラム実施についての準備・協議

共同教育プログラムの目的

本学と清華大学は平成10年8月に大学間交流協定を締結し、国際競争力のある相互研究・教育拠点としてこれまでも緊密な学術・教育交流関係を構築してきました。従来から親密な学術協力関係にあった両大学がそれぞれの大学の特性を生かしながら、研究・教育の両面で強力な協力関係を構築することによって、共同で世界水準の研究・教育を推進する人材の育成を支援することを目的としています。将来的には中国のその他の主要大学に範囲を広げ、より広範な学生交流を実施していくことを目指し、共同教育実践への研究者間の情報交換を本格的に行い、本学の教育目標である「指導的人材の育成」と「世界と地域に開かれた大学」として本学を導くことも目的としています。さらには高等教育のグローバル化、国際的人材流動性への対応、研究・教育の汎用性向上のための基盤確立を支援することを目指しています。

共同教育プログラム概要

平成16年2月、清華大学の顧秉林学長が本学を訪問した際に共同教育プログラムについて提案があり、その後数度の相互訪問（平成16年8月大西仁理事（社会貢献担当理事）が清華大学を訪問、同年10月顧秉林学長が来学、平成17年4月・9月・10月大西仁理事及び理学研究科・工学研究科教務委員会担当教授が清華大学を訪問、平成18年3月理学研究科教務委員会担当教授が清華大学を訪問）を行い、具体化に向けた協議支援をすすめてきました。学内においては国際交流企画室及び共同教育プログラム・ワーキンググループによる検討を進めるとともに、理学研究科・工学研究科各教務委員会及び各国際交流担当教授との連携により早期調印にむけた準備を進めてきました。その結果、平成18年3月24日には共同教育プログラム覚書に署名をすることができました。これは、東北大学及び清華大学の大学院修士課程の学生が、相手校の正規の学生として入学して、約1.5



左：大西仁理事 右：清華大学顧秉林学長
平成17年4月 中国清華大学於

年間の履修の後、東北大学及び清華大学の学位授与規定を満たせば、学位審査を経て東北大学修士号と清華大学修士号の2つの学位を取得することが可能となる取り決めです。それぞれの教育は、原則として英語にて実施されることになっており、現地語及び現地文化講座も受入校によって行われることになっています。今後は共同教育プログラム細目協議支援・募集要項作成支援等を行い、清華大学学生の早期受入を実現しようと考えています。

）紹介セミナー



東北大学紹介セミナー 平成17年12月
中国清華大学於

共同教育プログラムによる受入学生数を増やすには本学の研究・教育状況を清華大学教員及び学生に対して説明し、各担当教員の交流を促進する必要があり、平成17年11月に本学理学研究科教員6名、平成17年12月に本学工学研究科教員7名がそれぞれ清華大学にて東北大学紹介セミナーを開催しました。両セミナーとも多くの清華大学教員及び学生が参加して活発な議論が行われ、清華大学の研究室見学も実

施され研究状況を把握しました。また、平成18年2月には、清華大学物理系及び機械・材料系の教職員18名が本学にて清華大学紹介セミナーを開催し、同セミナーにも多くの本学教員及び学生が参加して清華大学の研究・教育状況を聞き入り、本学研究室見学等も行われて本学の最先端研究を熱心に見学し、各担当教員の交流を始めるための良い機会となりました。



東北大学紹介セミナー 平成17年12月
中国清華大学於

）共同教育プログラム実施協議

共同教育プログラムを推進するにあたって、本学及び清華大学が互いに大学の状況を把握し、交流を深めながら協議を行うことが重要であると考え、多くの協議を行いました。

平成17年4月には大西仁理事及び理学研究科・工学研究科教務委員会担当教員2名、9月には大西仁理事及び工学研究科国際交流担当教員1名、10月には大西仁理事及び理学研究科・工学研究科教務委員会担当教員2名、平成18年3月には理学研究科教務委員会担当教員1名が清華大学を訪問して担当教員と協議を行い、また、清華大学にて開催された平成17年11月及び12月の東北大学紹介セミナーの際にも本学の参加教員及び清華大学担当教員による協議が行われました。なお、本学にて開催された平成18年2月の清華大学紹介セミナーの際にも参加教員及び本学担当教員により協議を実施しました。



共同教育プログラムに関する清華大学との協議
平成18年2月 東北大学於

このようにグローバルオペレーションセンターの国際展開マネージャーを中心に紹介セミナーのアレンジ、共同教育プログラムに関する協議を継続的に続けることで、清華大学と覚書を締結することができました。

）清華大学との交流

・ 平成16年2月

清華大学の顧秉林学長が吉本高志総長を表敬訪問し、清華大学は修士課程学生30名を本学の材料科学研究所を初めとする修士課程に派遣する計画を持っており、ダブルディグリーを与えることを考えている旨の提案がありました。

・ 平成16年8月

大西仁理事が顧秉林学長を表敬訪問し、財源・学生受入の可能性等について意見交換を行いました。

・ 平成16年10月

顧秉林学長が「魯迅先生東北大学留学100周年記念式典」出席のために来学し、本プログラムについて大西仁理事と協議しました。

・ 平成17年4月

大西仁理事及び理学研究科・工学研究科教務委員会担当教授が清華大学にて本プログラム実施について詳細を協議しました。

・ 平成17年9月

大西仁理事及び理学研究科・工学研究科教務委員会担当教授が清華大学にて謝維和副校長と清華大学派遣学生について協議しました。

・ 平成17年10月

大西仁理事及び理学研究科・工学研究科教務委員会担当教授が謝副校長を表敬訪問し、共同教育プログラム覚書案を提出し、詳細について協議しました。

・ 平成18年3月

理学研究科教務委員会担当教授が清華大学にて、清華大学本プログラム担当教授と清華大学学生受入及び共同教育プログラム細目案について協議しました。

）清華大学の概要

清華大学は1911年に設置された清華学院を前身とし、1925年に設立された中国の国家重点大学です。北京市にキャンパスを置き、現在、大学院と2～5の系または研究所からなる7つの学院(School)、10の独立系(Department)と1研究所からなる中国第一の総合大学です。清華大学は、中国科学院会員34名及び中国工程院会員26名を擁し、教授1,170名及び副教授1,095名を含めた教員数は3,003名、博士課程4,659名及び修士課程13,897名を含めた学生数は32,328名です。また、清華大学は北京大学と並び称される総合大学で、理工系では中国随一の大学です(中国管理科学研究院の発表によると、1994年より12年間連続で中国大学ランキング1位を獲得)。

INSA-Lyon 及び Ecoles Centrale とのダブルディグリー・プログラム実施についての準備・協議

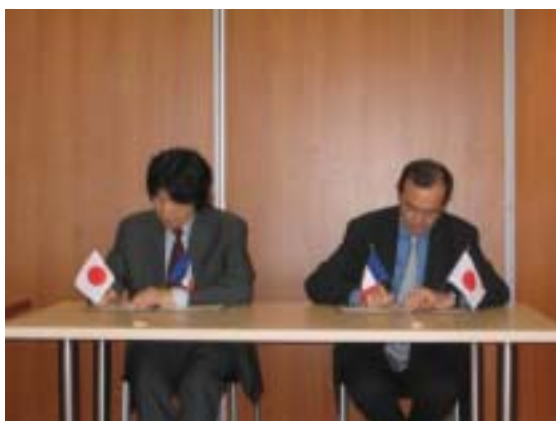
）ダブルディグリー・プログラムの目的

昨今のグローバル社会において活躍する人材を育成するための重要な要素の一つに「国境を越えて教育を受けるチャンスの提供」があります。東北大学はかねてから教員や学生の活発な交流を行い、この考えに同調するフランスの INSA-Lyon 及び Ecoles Centrale とダブルディグリー・プログラム覚書に調印しました。いずれも大学とは異なり、入学にも卒業にも厳しい選抜が課される、指導者養成を目的とした「グランゼコール」という高等教育機関に属し、学生は専門分野だけでなく、実社会で必要なスキルも学び、卒業と同時に管理職に就くことも珍しくありません。「研究第一主義」の東北大学で学ぶ一方で、フランスの未来の指導者と机を並べ、責任ある立場を担う者にとって欠かせない知識を



INSA-Lyon の Alain STORCK 学長と大西仁理事

広く浅く身につけることは、将来どのような進路に進むとしても大きな財産となるでしょう。既に同様のプログラムを中国の清華大学と調印しており、今後も世界のトップレベルの教育機関とこのような可能性を探りたいと考えています。



Ecole Centrale リヨン校の Bourgin 学長と大西仁理事

）ダブルディグリー・プログラムの概要

INSA-Lyon

東北大学の学部4年の課程を終え修士課程に入学した後に渡仏し、約2年間の研究を行い、必要な条件を満たせば東北大学、INSA-Lyon それぞれの学位を得ることができます。

いずれの機関も個々のケースによって渡仏する際の学年や履修課程が異なる場合があります。協定を結んでいるので東北大学の学生は授業料を東北大学にだけ支払います。また、原則として授業や指導はフランス語で受けることが清華大学との共同教育プログラムとは大きく異なる点です。いずれの機関でもフランスで最高の評価を得るとともに、就職にも断然有利な修士レベルの学位「Diplome d'Ingenieur(ディプローム)」の修得を目指します。

Ecoles Centrale

東北大学の学生は主に学部在学中に渡仏し、必要に応じてフランス語コースを受講し、約 2 年間 Ecoles Centrale の学生として授業を履修し、研究活動を行います。その後、東北大学へ戻って学部卒業研究を行い、修士課程に入学します。双方の学位審査を経て東北大学、Ecoles Centrale それぞれの学位が授与されます。

) INSA-Lyon、Ecoles Centrale との交流

INSA-Lyon

・ 平成 9 年 7 月

流体科学研究所の谷順二教授と INSA-Lyon の Gobin 名誉教授の共同提案により、「第 1 回知的材料構造物に関する日仏セミナー」を仙台にて谷教授が主催しました。日本から 25 名、フランスから 12 名が参加し、論文を発表しました。本会議は東北大学流体科学研究所と INSA-Lyon が核となり、日仏両国にて計 4 回の開催を数えました。

・ 平成 15 年 10 月-平成 18 年 9 月

知的材料システムに関する共同研究を開始するために、日本学術振興会の重点研究国際研究共同事業「生体・構造保全のための知的材料システム」(日本側代表：谷順二教授、副代表：高木敏行教授(流体科学研究所)、フランス側代表：Y. Jayet INSA-Lyon 教授)を共同で申請し、採択され、共同研究を推進しました。

・ 平成 15 年 9 月

流体科学研究所の高木敏行教授と内一哲哉助教授は、INSA-Lyon を訪問し、リヨン校と会談し、21 世紀 COE プログラム「流動ダイナミクス研究教育拠点」の枠組みによる学生交流と、日本学術振興会の重点研究国際協力事業「生体・構造保全のための知的材料システム」による共同研究を促進するために、部局間協定を締結し、相互リエゾンオフィスを設立する必要があるとの合意に達しました。

・ 平成 16 年 1 月

井小萩利明流体科学研究所長等が INSA-Lyon を訪れ、部局間学術交流協定を締結しました。また、東北大学流体科学研究所リエゾンオフィスを同校に開設しました。

・ 平成 16 年 1 月

日本学術振興会の重点研究国際協力事業「生体・構造保全のための知的材料システム」のメンバーである工学研究科の長南征二教授が INSA-Lyon を訪問、金属材料物理研究所長 Cavaille 教授等と共同研究について議論を行いました。

- ・ **平成16年2月**

金属材料物理研究所長 Cavaille 教授等が東北大学を訪れ、ダブルディグリーを視野に入れ、大学間学術交流協定の締結と両校の交流について打ち合わせを行いました。

- ・ **平成16年7月**

両校との間で大学間学術交流協定を締結しました。

- ・ **平成17年1月**

同校 Cavaille 教授が中心となり、リヨン市内において「第1回産学連携セミナー」を開催しました。

- ・ **平成17年9, 10月**

東北大学の代表団が INSA-Lyon を訪問し、ダブルディグリー・プログラムについて協議を重ねました。

- ・ **平成17年11月**

ダブルディグリー・プログラム覚書を調印し、リヨン市内にて「第2回産学連携セミナー」を開催しました。

- ・ **平成18年3月**

平成19年に Ecole Centrale リヨン校を含めた3校で共同のイベントを実施することを決定しました。

Ecoles Centrale

- ・ **平成15年5月**

Ecole Centrale リヨン校と大学間学術協定を締結しました。

- ・ **平成16年5月**

パリ、リヨン、リール及びナント校の代表が来訪しダブルディグリー・プログラムの提案を受けました。学内においては国際交流企画室及びそのワーキンググループで調整を行いました。

- ・ **平成16年5月-平成18年3月**

本学の教員がリヨンを訪問するたびにダブルディグリー・プログラムの詳細につき協議を重ねるとともに、学内の調整を図りました。

- ・ **平成17年11月**

リヨンにて Ecoles Centrale5 校と大学間学術交流協定に調印しました。

- ・ **平成17年3月**

リヨンにてダブルディグリー・プログラム覚書を締結しました。

いずれも今後、ますます活発な交流が期待されます。

） **INSA-Lyon、Ecoles Centrale の概要**

- ・ **INSA-Lyon**

1957年に設置されたフランスの主要な工学系高等教育機関の1つであり、10学科（生化学科、エネルギー環境工学科、材料工学科、電気通信工学科、土木・都市工学科、機械設計工学科、産業工学科、電気工学科、機械開発工学科）31専攻からなり、フランスの科学技術と経済の発展に大きく貢献しています。学生数は約5,400名です。

- ・ **Ecoles Centrale**

マルセイユ(2003年設立、学生数443)、リヨン(1857年設立、学生数1031)、ナント(1919年設立、学生数1350)、リール(1854年設立、学生数1250)、パリ(1892年設立、学生数1413)の5校からなる理工系のグランゼコールであり、いずれも難関で知られています。古くから海外と密接な関係を保ち、ヨーロッパだけでなく、中国やブラジルの大学とダブルディグリー協定を結んでいます。在学中にインターンが義務となっており、卒業生の多くが企業の幹部として働いています。

(2) グローバルネットワークの構築 東北大学E Uフォーラム（仮称）の準備



INSA-Lyon 内における3機関の協議

近年のグローバル化の進展、国立大学の法人化等により、大学の競争的環境が厳しさを増す中で、国際的に最高水準の研究の推進・充実を図るとともに、国籍を問わず世界から多くの優秀な研究者・学生を獲得する必要があります。そのためには本学の最新の研究、教育の特徴と魅力を講演等により広く海外にも伝えるとともに、各国の学術研究・高等教育機関とネットワークを構築し、さらに、人的なネットワークも構築する必要があります。そのような目的を達成するために平成15年10月に初めてドイツで『東北大学ゲッティンゲン・フォーラム』を、平成16年6月に第2回目としてイギリスで『東北大学ケンブリッジ・フォーラム』を開催しました。

そして、平成18年度に第3回目として『東北大学E Uフォーラム（仮称）』をフランスで開催する計画を立てており、その事前調査・関係機関との協議のため、グローバルオペレーションセンター長である大西仁理事他4名が平成18年3月にリヨンに渡航しました。

このフォーラムは、本学とダブルディグリー・プログラムで協力関係のあるEcole Centrale リヨン校とINSA-Lyonとの共催でジョイント・フォーラムとして開催することを予定しており、本学においては創立100周年、Ecole Centrale リヨン校においては創立150周年、またINSA-Lyonにおいては創立50周年の記念ジョイント・フォーラムと位置付けられるものです。この協議では、Ecole Centrale リヨン校の国際交流部長Leo Vincent氏やINSA-Lyonの国際交流部長JC Bureau氏等と、ジョイント・フォーラムの開催時期、テーマ、進行方法等を話し合い、平成19年2月上旬にリヨンにて、平成19年12月中旬には、これまで本学が日本経済新聞社と共催してきた「100周年記念セミナー」の枠を踏襲した形式で東京、仙台にて開催することになりました。

(現時点での案)

1. リヨンでのジョイント・フォーラム〔平成19年2月8日(木)～9日(金)〕
 - (1) 期 間：一日半
 - (2) メインテーマ：10年後の科学の姿
- 2020年の科学の姿とその社会・産業・経済に与えるインパクト -
 - (3) 対 象：主に産業界、大学、研究機関関係者、学生、一般市民

(4) 講演者：3校から各5人程度が報告者となる。

各分野を代表する研究者が、自らの分野の研究の10年後(2020年)の姿について報告する。内容は、世界最先端の高度なものにするが、一般聴衆が理解できるように分かり易く話す。

(5) プログラム：

第1日目：全日で産業界、大学、研究機関関係者、政府関係者、ジャーナリストを対象とし、300名位の聴衆とする。

第2日目：半日で複数のセッションを行う。学生、若手研究者を主な対象とする。

2. 日本でのフォーラム(平成19年12月10日の週)

(1) 期間：全日 日経ホール(東京) 聴衆600名 日仏同時通訳

(これまで東北大学が日本経済新聞社と共催してきた「100周年記念セミナー」の枠を踏襲する。ただし、半日ではなく全日とする。)

(2) メインテーマ：

『グローバル化社会における科学技術のマネジメント及び教育』、あるいは『将来に向けていかにしてbrilliantでconscientiousな科学者・エンジニアを育成することができるか。』

(3) 東京でのフォーラム開催後、仙台に移動して、若手研究者・学生を対象としたワークショップ(複数)を開催する。(場合によっては、地元産業界や一般聴衆を対象とするフォーラムを開催することも考慮する。)

東北大学OB会組織支援の準備

）OB会組織支援の目的

長年にわたる要望があったにもかかわらず、本学には全学的なOB会組織が存在していませんでした。そこで、本学100周年記念事業の一環として、本学OBを対象としたOB会組織を発足させることになりました。本学には多くの外国人留学生及び外国人研究者等が在籍及び帰国し、全世界で活躍しています。今回の全学的OB会組織発足準備において、この外国人留学生及び外国人研究者等も加えた留学生同窓会発足のための準備をしています。外国人留学生及び外国人研究者等を加えることにより、本学研究者・学生が海外で研究・学習したり、種々の国際的イベントに参加することを促進することができますと考えています。また、帰国後も連携をとることにより人的なネットワークを形成することができ、それら優秀な研究者・学生の一部は将来の本学の中堅研究者として活躍することも期待されます。将来的には、海外から優秀な若手研究者・留学生を確保して、研究・教育の活性化を図るとともに、その一部を本学の将来の研究・教育・経営のリーダーに育成し、本学主体で世界に展開する研究教育ネットワークでの中核的役割を担わせることを考えています。

）留学生同窓会設置準備



東北大学国際同窓会ホームページ

URL: <http://www.insc.tohoku.ac.jp/alumni/>

個人情報保護法及び同指針、本学個人情報保護規程及び同内規や個人情報保護法に関する研修会等に参加して、同法の同窓会設置準備における注意点等を研究しました。本学事務関係者及び東北大学留学生協会（TUFSA）代表者による同窓会活動に関する連絡会議を実施し、個別留学生及び外国人研究者の各国連絡体制・活動状況等を確認し、各国代表者を選出してもらい、同窓会設置支援を依頼しています。また、本学100周年記念事業の一環として実施される東北大学メールマガジン運営委員会に参加して、日本語の英文翻訳等を通して外国人留学生及び外国人研究者等の情報共有準備も行っています。

そして、左記のとおり東北大学国際同窓会ホームページを立ち上げました。

(3) 国際情報基盤の構築

順次ウェブサイトの作成、更新



ニュース・トピックス



ニュース・トピックス記事内容

本学では、開学以来、活発な研究・教育活動を行ってきており、世界的な研究成果や数多くの卒業生があらゆる分野で現在も活躍しています。しかし、それに比べ、法人化前の国立大学においては、社会への積極的な研究・教育活動の情報発信については、立ち遅れている面があり、特に英語による情報発信については、充実を図る必要性が早急に求められていました。

そこで、平成17年に本学にグローバルオペレーションセンターが設置されたことに伴い、同スタッフの支援により、英語による情報発信の充実を図りました。

具体的には、諸外国の関係機関や研究者、留学生に対し、本学の研究教育活動をニュース・トピックスとしてリアルタイムに発信することにより、本学の魅力をアピールしています。これは、国際的に東北大学ブランドの確立に資するものであり、諸外国からのより多くの優秀な研究者及び留学生の獲得を目指し、本学の国際的な位置付けを高め、東北大学ブランドを確立することを目的としています。

詳細については、下記東北大学英文ホームページをご覧ください。

東北大学英文ホームページ URL: <http://www.tohoku.ac.jp/english/index.html>

また、一部ウェブサイトのフランス語版及び中国語版作成の支援を行い、英語以外による積極的な本学の研究・教育活動の情報発信を行いました。

フランス語版 URL: <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/goc/outline/Chinese/index.html>

中国語版 URL: <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/goc/outline/French/index.html>

(4) 事務職員に対する語学研修の実施

大学の国際交流推進の基盤強化には事務局の国際事業対応能力の向上が重要な要素となっており、そのためグローバルオペレーションセンターの重要な業務のひとつに研修事業の企画・運営があります。

そして、グローバルオペレーションセンターでは、国際業務研修について、業務研修と業務を遂行する上で不可欠である語学研修の二つを計画しており、平成17年度には、語学研修として国際交流部事務職員を対象とした英語上級クラス研修と各部局の国際業務職員等を対象とした入門・基礎クラス研修を実施しました。



英語上級クラス研修の様相

まず、国際交流部事務職員を対象とした上級者向け語学研修では、「株式会社サイマル・インターナショナル」から外国人講師を招き、英文書簡の作成、英語によるプレゼンテーション及びスピーチの方法を指導しました。英文書簡を作成する授業では、「Requests」や「Information」、「Rejections」など毎回特定のテーマを設け、サンプル文書を参考に文章の構成や文法、トーン、表現方法などを学習しました。

さらに、実際の業務を想定した書簡の作成を課題とし添削することでより実務に活かせるようになりました。このように授業では基礎知識の修得、課題ではそれぞれのケーススタディによる実践的な演習を中心に行い、授業と課題とが補完し合う効果的な研修を組み立てました。

また、英語によるプレゼンテーション及びスピーチのトレーニングは、二つのパートに分けて行いました。一つはプレゼンテーションの構築スキルや論法、スライドの作成と利用法などの「言語部分 (Verbal)」、もう一つは視線や声、ジェスチャーなどの「非言語部分 (Nonverbal)」です。それぞれのパートについて講義をした後、「東北大学の紹介」などのテーマについて各研修生が発表し、講師や他の研修生のアドバイスを基に修正を行いました。そして、スピーチの授業では発表を録音して聴き、客観的に自分の話し方や発音をチェックしました。このように講義と実践を繰り返すことが、分かりやすく、かつ人を引き付ける魅力的な発表方法の修得に繋がりました。

そして、各部局の国際業務職員等を対象とした入門・基礎クラス研修では、「英会話スクール&留学 プライマリー」から外国人講師を招き、各部局の窓口において外国人研究者や外国人留学生が来ても、英語で応対ができるよう日常英会話の研修を実施しました。この研修では事前に研修希望者に対してテストを行い、「入門」、「基礎」及び「基礎」の3クラスに分



入門・基礎クラス英語研修の様相

けました。

「入門クラス」は挨拶や決まった言い回しを覚えて通常の会話で初歩的なコミュニケーションができるようにする、「基礎クラス」は簡単な文法・構文を身に付けて通常の会話で支障なくコミュニケーションができるようにする、「基礎クラス」はディスカッションやペアワークを通して自分の意見を的確に相手に伝えられるようにする、とそれぞれ目標を立て各レベルに合わせて授業を進めました。

また、全てのクラスで時制や受動態、比較級・最大級などの重要な基本文型を丁寧に指導し、「話す」、「聴く」、「書く」すべての面で基礎を固めることに力を入れました。具体的には、講師からその日のレッスンポイントについて説明を受けた後、そのポイントを用いて研修生同士で会話をしたり、リスニング問題や文法問題を解いたりして反復練習をし、知識の定着を図り、さらに、定期的に英語に触れる機会を提供することで、英語への苦手意識を消し学習意欲を向上させることができました。

この国際交流部事務職員と部局の国際業務職員等を対象とした二つの語学研修は、平成17年11月中旬から平成18年3月中旬までの約4ヶ月に渡って実施され、計66名の職員が受講しました。将来的には国際交流部事務職員はもちろん、どの部局のどの担当にも一定の外国語の技能を持つ職員が配置されることを目指しております。

各クラスの実施要項は下記の通りです。

国際交流部 事務職員対象クラス

日 程：平成17年11月17日～平成18年3月9日、毎週木曜
全15回（各回・2時間） 17：50～19：50

受講者数：11名

講 師：Edward Richards（「株式会社サイマル・インターナショナル」より派遣）

部局 国際業務職員等対象クラス

(1) 入門クラス

日 程：平成17年11月14日～平成18年3月15日、毎週月曜と水曜
全30回（各回・2時間） 18：00～20：00

受講者数：22名

講 師：Jonah Takagi、 Juana Almaguer

3クラス共通（「英会話スクール&留学 プライマリー」より派遣）

(2) 基礎クラス

日 程：平成17年11月15日～平成18年3月9日、毎週火曜と木曜
全30回（各回・2時間） 18：00～20：00

受講者数：16名

(3) 基礎クラス

日 程：平成17年11月16日～平成18年3月17日、毎週水曜と金曜
全30回（各回・2時間） 18：00～20：00

受講者数：17名

(5) 国際産学連携の推進

INSA-Lyon、JETRO 事務所他との協議



INSA-Lyon の概要を説明する Pr Alain STORCK
INSA-Lyon 学長

本学と INSA-Lyon は、学术交流の拠点として相互にリエゾンオフィスを設置することに合意し、平成16年1月に INSA-Lyon 内のオフィスの供用が開始されました。両校では、この協力関係が単なる学术交流に止まらず、さらには国際的な産学連携活動へと発展していくことを期待されており、その第一段階として、平成17年1月28日に INSA-Lyon において「第1回国際産学連携交流会」を開催しました。

そして、本学グローバルオペレーションセンターの支援の下に、平成17年11月25日にリヨンのクレディ・アグリコール銀行会議室において、INSA-Lyon、Ecole Centrale リヨン校、仙台市、JETRO リヨン事務所他との共催で、「第2回国際産学連携交流会」を開催しました。これは、本学とリヨンのグランゼコールとの長年の共同研究の実績をふまえ、仙台市とローヌ・アルプ地方双方の産業界との産学連携への発展の可能性を探るための会合でした。

なお、第2回国際産学連携交流会については、平成17年9月29日に JETRO リヨン事務所と打合せを行い、ローヌ・アルプ地方の企業及び産学連携関係の状況を把握のうえ、万全を期して開催しました。



東北大学の産学連携支援体制を説明する霜山研究推進部長



東北大学の国際戦略を説明する大西仁理事

第2回国際産学連携交流会報告

URL : http://www.ifs.tohoku.ac.jp/21coe/joint_forum2005/joint_forum2005j.htm

東北大学の海外拠点 (INSA-Lyon リエゾンオフィス)

URL : <http://www.tohoku.ac.jp/japanese/intl/intl5-1.html>

第2回国際産学連携交流会プログラム

日時：平成17年11月25日(金)8:45より

場所：クレディ・アグリコール銀行会議室 リヨン

日程：8:30 受付開始

8:45 オープニング(主催者挨拶)

クレディ・アグリコール銀行代表

INSA-Lyon 総長 Alain Storck

東北大学 大西 仁理事

Ecole Centrale リヨン校学長 Patrick Bourgin

9:30 第1部 産学連携 - 地域・産業からの視点

「ローヌ・アルプ州における地域政策」

ローヌ・アルプ州議会副議長(高等教育・研究担当) Roger Fougères

「仙台市における産学連携への取組」

仙台市経済局産業政策部産学連携推進課長 森本 修

「競争力の中心 - 化学と環境 - 」

ローディア社 Pascal Barthelemy

10:30 第2部 産学連携 - 「学」からのシーズ紹介

「東北大学の材料科学研究」

東北大学工学研究科教授 山村 力

「東北大学21世紀COEプログラムの紹介」

東北大学流体科学研究所教授 圓山 重直

「ローヌ・アルプ州プロジェクト：クラスター『持続可能な発展のための材料と概念』」

INSA-Lyon, GEMPPM 長 Jean-Yves Cavaille

11:30 休憩

11:40 第3部 産学連携 - 「学」からの視点

「東北大学の産学連携推進」

東北大学研究推進部長 霜山 忠男

「フランスのある大学研究所による対日産学パートナーシップの事例」

ECL トライポロジー・システム動力学研究室長 Philippe Kapsa

「INSA と企業の協力関係 - 日仏連携の様々な経験 - 」

INSAVALOR Marc Le Gal

12:30 フリ - ディスカッション

情報交換会(ビジネスランチ) (参加組織等の展示紹介)

15:00 散会

Organismes Partenaires :

(ポスターセッション)

東北大学の材料科学研究

東北大学 21 世紀 COE プログラム

「物質創製・材料化国際研究教育拠点」	井上 明久
「バイオナノテクノロジー未来医工学」	佐藤 正明
「新世代情報エレクトロニクスシステムの構築」	内田 龍男
「ナノテクノロジー基盤機械科学フロンティア」	庄子 哲雄
「流動ダイナミクス国際研究教育拠点」	圓山 重直

仙台市における産学連携

産学クラスター

知的クラスター

(6) 全学的国際事業の支援

魯迅シンポジウムの準備・実施



国際シンポジウム 魯迅の起点：仙台の記憶開会式

本の日本語版は平成16年度既に東北大学出版会より刊行されています。

シンポジウムでは、清国政府派遣の留学生として仙台医学専門学校（東北大学の前身）の門を叩いた中国浙江省出身の学生周樹人が、やがて中国を代表する文豪魯迅となる転機をもたらした土地が仙台であったことを、日中双方の研究者によって再確認・解明するものであり、100年前の魯迅の仙台留学時の学生・生活・思想などをめぐる活発な討論や「魯迅と仙台（中国語版）」の概要説明等が行われました。



『東北大学藤野先生賞』を授与された北京魯迅博物

また、学术交流を通じ本学の教育研究の発展に功績のあった中国人を表彰するために今年度新たに創設された『東北大学藤野先生賞』を孫毅北京魯迅博物館長へ吉本総長より授与しました。

そして、北京のシンポジウムで、魯迅「解剖学ノート」の電子複製本が魯迅博物館から東北大学に寄贈されたことを記念して、「解剖学ノート寄贈記念国際シンポジウム 魯迅と藤野先生」

本学では、平成17年9月27日、28日の両日、中国の北京魯迅博物館にて、北京魯迅博物館・在中華人民共和国日本大使館・仙台市と共催して『国際シンポジウム -魯迅の起点：仙台の記憶-』を開催しました。

このシンポジウムは『魯迅と仙台』（魯迅・東北大学留学百周年史編集委員会編）の中国語版の発行を記念して行われたもので、この



シンポジウム会場の模様

冒頭、鄭故宮博物館長（中国政府文化部副大臣）の挨拶があり、中国共産党中央機関紙「人民日報」に速報が掲載されるなど、中国政府・共産党からも大きな関心がよせられ、北京魯迅博物館側から『魯迅の講義のノート』複製版が本学に寄贈されることになり、それを受け、本学からは魯迅の同級生であった小野豊三郎氏のノートの複製版が博物館へ寄贈されました。



関係者での記念撮影



解剖学ノート 寄贈記念シンポジウムで挨拶する
大西仁理事

が平成18年2月18日に仙台にて開催されました。寄贈されたノートは、中国では、国家一級文物（国宝）指定を受けている極めて貴重な文化財であって、魯迅の精神史や、日本における医学教育史を研究する関係者の間で公表・検討が待望されていたものでした。本シンポジウムには200名を超える一般市民も参加し、本ノートへの研究史上最初の本格的な研究成果が東北大学の研究者から行われ、多数の新聞で報じられ、またシンポジウムに招聘された孫郁魯迅博物館館長からは、日本側の研究成果の中

国での公表確約をはじめ、東北大学との研究交流の深化について多様な提案がありました。このシンポジウム開催により、本学における魯迅研究の成果が日本国内及び中国国内のマスコミに取り上げられ、各方面に反響を呼びました。

詳細については、下記 URL を参照のこと。

- ・国際シンポジウム 「魯迅の起点：仙台の記憶」

URL:<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kokusai/luxun2005/main.htm>

- ・「解剖学ノート 寄贈記念シンポジウム 魯迅と藤野先生」

URL:<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/topics/newtopics.html#20060120>

国際シンポジウム 「魯迅の起点：仙台の記憶」

日 時：平成17年9月27日、28日

場 所：中国北京魯迅博物館

平成17年9月27日 プログラム

9:00-9:30 開会挨拶

9:30-12:30 (1) 仙台時代

『魯迅と仙台』概要

大村 泉（東北大学大学院経済学研究科・教授）

解 澤春（山形大学非常勤講師）

魯迅の仙台時代

渡邊 襄（日中友好協会宮城県連事務局長）

医学から文学へ

阿部 兼也（東洋大学文学部・教授）

中国語版『魯迅と仙台』 - その意義

黄 喬生（北京魯迅博物館・助教授）

魯迅の文語体随筆と初期思想の形成

Jon Eugene von Kowallis(ニューサウスウェールズ大学・上級講師)

仙台の魯迅：越える中日交流史を期待する

王得後（北京魯迅博物館・研究員）

12:30-14:00 Lunch Time

14:00-17:00 (2) 魯迅の解剖学ノートをめぐって

魯迅解剖学ノート初探

浦山 きか

(東北大学高等教育開発推進センター・非常勤講師、
北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部・客員研究員)

医学史と魯迅の解剖学ノート

坂井 建雄（順天堂大学医学部・教授）

魯迅と仙台 - 出会いを導くもの，出会いが導くもの

島途 健一（東北大学 大学院国際文化研究科・教授）

「仙台魯迅」のイデオロギー - 太宰治の「惜別」を中心に

董炳月（中国社会科学院・研究員）

19:00- [レセプション（魯迅博物館主催）]

平成 17 年 9 月 28 日 プログラム

9:00-12:00 (3) 魯迅研究の到達点と課題

魯迅と購書

花登 正宏（東北大学大学院文学研究科・教授）

日本経験と民族意識

孫 毅（北京魯迅博物館・館長）

「仙台経験」と「医学から文学への転換」

高遠東（北京大学文学部・助教授）

12:30-14:00 Lunch Time

14:00-17:00 画像で見る仙台医学専門学校，東北大学と魯迅

明日香 壽川（東北大学東北アジア研究センター・教授）

魯迅の街にあこがれた中国人留学生の今

佃 良彦（東北大学大学院経済学研究科・教授）

東北大学藤野賞授賞式、記念品贈呈

東北大学総長 閉会挨拶

18:00-20:00 [レセプション（東北大学 及び仙台市主催）]

「解剖学ノート」寄贈記念国際シンポジウム 魯迅と藤野先生

日 時：平成18年2月18日 13:00～17:00

場 所：仙台国際センター3階 白檜

- 13:00 開会の辞（司会者）
シンポジウムの紹介、大西理事及び山浦仙台市副市長のご紹介
13:03 大西理事挨拶
13:08 山浦副市長挨拶

（第1部）

- 13:13 演劇の紹介（司会者）
13:15 演劇「遠い火 仙台における魯迅」（劇団 仙台小劇場）
14:00 休憩

（第2部）

- 14:15 国際シンポジウム 魯迅と藤野先生 開会
無線受信機器の使用法説明
14:18 阿部 兼也 東北大学名誉教授の自己紹介及び講演者紹介
14:20 孫 毅 北京魯迅博物館館長講演
14:40 花登 正宏 東北大学大学院文学研究科教授講演
15:10 黄 喬生 北京魯迅博物館館長補佐講演
15:30 坂井 建雄 順天堂大学医学部教授講演
16:10 大村 泉 東北大学大学院経済学研究科教授講演
16:35 解読・復刻稿贈呈
浦山 きか 東北大学高等教育開発推進センター非常勤講師
窪 俊一 東北大学大学院情報科学研究科助教授
16:42 江沢民元国家主席来日時の記念写真集贈呈（石川安寿 写真館）
16:49 藤野先生「惜別」記念写真贈呈（孫 毅館長）
16:55 閉会の辞

4.まとめ

本学では、平成17年6月1日に学内手続きを経て、東北大学グローバルオペレーションセンターを設置しました。それに伴い、一般公募により、語学能力があり、海外経験豊富な国際展開マネージャー2名を、その他事務補佐員、英語圏のネイティブスピーカーを採用し、グローバルオペレーションセンタータスクフォースを組織し、従来の国際交流部と併せて、本学の国際交流組織の体制整備を行いました。

そして、清華大学との共同教育プログラム及び INSA-Lyon、Ecoles Centrale とのダブルディグリー・プログラム実施のための準備・協議を中心にその他各種事業を進めています。短期間での実施計画は難しい点がありましたが、実施計画は順調に進んでいます。

なお、本学では、文部科学省国際戦略本部強化事業の他、文部科学省戦略的国際連携支援事業にも採択され、法人化前と比べ、国際交流の支援基盤及び国際交流は確実に充実してきています。平成17年度中には、海外ブランチを設置すべく中国やフランスへ現地調査や関係機関との協議を続けてきましたが、平成18年度には本学に海外オフィス在り方検討委員会を立ち上げ、大学の国際戦略及び経営の面から設置・運営について検討していくことになりました。

また、これまでの旧国立大学の事務組織は、総務・財務部門を中心に整備されてきましたが、国立大学の法人化に伴い、最近では、数多くの大学が研究・教育部門の基盤整備を行なっています。その中で、特に国際交流推進体制の整備を充実させることが急務な課題となっており、支援組織である事務組織の充実、それを支えるスタッフの育成が求められています。スタッフ育成のためにも、今後も語学研修及び専門的知識を修得するための研修等を充実させたいと考えています。

最後になりますが、新しく開設した下記グローバルオペレーションセンターホームページにより積極的な活動報告を発信していく予定です。



グローバルオペレーションセンターHP

URL: <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/goc/top.html>

本報告書は、文部科学省の再委託費による再委託業務として、東北大学が実施した平成17年度「大学国際戦略本部強化事業」の成果を取りまとめたものです。
従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。